

教育支援人材研修・認証制度に関するアンケート調査結果

立石 麻衣子

(奈良教育大学 教育実践開発研究センター(地域教育支援開発部門))

加藤 久雄

(奈良教育大学 国語教育講座(国語学))

高橋 豪仁

(奈良教育大学 保健体育講座(体育学))

The result of the questionnaire about training and certification system for volunteers who support children's educational activities in the local community

Maiko TATEISHI

(Center for Educational Research and Development, Nara University of Education)

Hisao KATO

(Department of Japanese Education, Nara University of Education)

Hidesato TAKAHASHI

(Department of Physical Education, Nara University of Education)

要旨: 本資料は、本学が主催する2013年度こどもパートナー養成講座の受講者を対象に実施した、教育支援人材研修・認証制度に関するアンケート調査結果である。調査の目的は、講座受講者の特徴ならびに、受講者の研修状況と研修および資格認証に対する意識を明らかにすることである。結果、受講者の特徴としては、50代と20代の参加が多く、また現在仕事ないしボランティアとして月に複数回活動に携わっている人々、特に、民生児童委員や地域教育協議会や放課後子ども教室など行政による枠組みの中で活動している人が多いことが分かった。研修に関する現状と認識については、受講者の過半数が研修の機会をほとんど持たず、一方でその必要性を感じており、機会があればまた参加したいと答えた。資格認証についても、半数以上の受講者が何らかの資格認証を必要としていることが明らかになった。

キーワード: 教育支援人材 workforce to support educational activities、
研修・認証制度 training and certification system、
ボランティア養成 training for volunteer

1. 調査の概要

本調査の目的は二つある。一つは「こどもパートナー養成講座」受講者の属性を調べることである。もう一つは、受講者すなわち地域で子どもや若者を対象とする教育ボランティア活動に参加する人々が、教育ボランティア活動をするにあたり研修を受ける機会が用意されているのか、研修の必要性を感じているのか、また資格認証の必要性を感じているのか等を調べることにより、こどもパートナー養成講座受講者における研修・認証制度に対する現状と認識を明らかにすることである。

調査実施日は、2013年9月7日(土)である。対象者は2013年度こどもパートナー養成講座の受講者である。受講者69名のうち、回答者数は55名、回答率は79.9%であった。調査結果の詳細は以下のとおりである。

2. 調査結果の詳細

問1 性別

男性18人、女性37人

問2 年代

10代8人、20代12人、30代5人、
40代3人、50代15人、60代9人、
70代以上3人

問3 活動の参加:あなたは地域で子どもや若者を対象とする教育活動へ参加していますか。

現在にも、以前にも行ったことがない 7人
現在、仕事として行っている 14人

現在、ボランティアとして行っている 29人
 現在は行っていないが、以前に行ったことがある 4人
 未回答 1人

理由(自由記述^{*)})

- ・ こどもパートナー養成講座講義1の講義のように基本的な心構えや子どもへの接し方は勉強しておいた方がいいと思うから。
- ・ 子どもとの接し方を学ぶ必要があると思うから。
- ・ 子どもの接し方を学び、担当に活かしたい。
- ・ 人と人との関わりになるので、技術は必要であると思うから。
- ・ 子どもと触れ合う際のマナーやモラルを学ぶ機会が必要だと感じるため。
- ・ 子どもとの関わり方について知識があった方が上手く事を進められるから。
- ・ 子どもに関わる知識や技術について、専門的な事を理解しておくべきだと思います。私自身、子どもと接する際に色々な知識を身につけておきたいと思っていますが、一概にすべての人が研修を受ける必要は・・・と思います。ただ子どもと関わる人には、色々知ってほしい内容だと思いました。
- ・ 様々な知識が必要ですし、対処の仕方も教えて欲しいです。(ちょっとした言葉かけの仕方)
- ・ 資質のある方は必要ないかも知れませんが、子どもとの対応で迷う事が多々有るから。
- ・ 一人よがりな接し方は子どもの支援にならないと考えるため。
- ・ 子どもに寄り添う理論をより深めるため。経験を少しでも乗り越えるため。
- ・ 誤った関わり方、対処の仕方をしない為には知識を得ることは必要だと思う。
- ・ 子ども達に対していい加減な対応をしていると、それは教育活動というよりも破壊活動になってしまうと思うから。
- ・ 知識のあるなしで関わる子ども達に与える影響が変わってくるので。
- ・ 分かろうとしなければ子どもの気持ちは分からないから。
- ・ 色々な子どもがいるので、知識を色々知っておいた方が子どもに合わせた対応ができる。大変勉強になりました。
- ・ 個々の対応とは思っていますが、発達障害についてなど、知っておかなければならない基礎知識があるので、必要と感じています。
- ・ 知識として知る事でより深く理解出来るようになると思う。
- ・ 現場で実際に子どもとの関わりの中で学んでいくことも多いと思うが、まず知識として子どもに関する情報は得ておいたほうが良いと思うため。
- ・ 子どもの事が色々分かると思う。

問4 どのくらいの間隔で活動していますか。

ほとんど毎日 3人
 週に3、4回 4人
 週に1、2回 13人
 月に2、3回 11人
 月に1回程度 3人
 3か月に1回程度 1人
 半年に1回程度 0人
 年1回程度 0人
 不定期 4人
 未回答 16人

問5 所属(立場)

- ・ 民生児童委員11人(主任児童委員7人、会長2人、責任者1人)
- ・ 放課後子ども教室5人(支援員2人、安全管理員1人、コーディネーター1人、スタッフ1人)
- ・ 地域協議会4人(地域コーディネーター2人、地域コーディネーター兼学校運営委員会2人)
- ・ 小学校PTA会長1人
- ・ 学童保育3人
- ・ 公立保育園保育士1人
- ・ 青少年野外活動センター2人
- ・ 教育行政職員3人
- ・ 学生10人(大学生・大学院生9人、高校生1人)
- ・ その他6人

問6 研修の受講機会:あなたは年に何回このような研修を受ける機会がありますか。

今回初めて 30人
 1回目 3人
 2回目 4人
 3回以上5回未満 11人
 5回以上 7人

問7 研修の必要性:あなたは、地域で子どもや若者を対象とする教育活動を行うに際し、研修の必要性を感じますか。

強く感じる 26人
 感じる 29人
 感じない 0人

- ・知識なくして実践(指導)なし
- ・ある程度の専門的な知識を持っているかそうでないかで大きく違うと思うから。
- ・今まで知らなかったことが知れて、これからのためになると思うし、考え方が変わりました。
- ・教育に携わる側の力量や地域に与える影響は大きい。独学や経験則だけでは不十分だと思う。
- ・目的や支援の仕方を考えることが必要だと思うから。
- ・現代のニーズにあった教育を学ぶべき。
- ・子どもを取り巻く環境が多様化している。
- ・地域住民に対し、子どもの現状を知って頂きたいから。
- ・近年の子どもに対する理解や支援の方法を知っている人がまだまだ少ないと感じるから。
- ・日々変わりゆく社会があり、子ども、大人がその社会で生きている。その背景や今の子どもの現実を正しく理解することにより、接し方、問題解決の道的一端になると考えます。
- ・ある程度の研修を積まないと現場に行っても問題を解決できないと思う。
- ・活動を振り返るきっかけの一つとなるから。
- ・日々の子どもの関わりに流されてしまいがちな事を改めて考える良い機会となる。
- ・一つの活動をするのに、ボランティアスタッフが現状を良く知り、目的を共有することはとても大切。その為にも、色々な事を常に学んでいく研修は必要だと思います。
- ・ボランティア活動の意義が深まり、色々の観点からの知識を得ることにより視野が広がった。
- ・情報共有と知識の吸収のため
- ・自分の方向性がわからなくなったり、マンネリ化するので。
- ・新しい考え方を学べるから。
- ・ボランティア活動する学校教育支援人材は多く存在するが、個々に活動しており、情報交換ネットワーク作りやスキル向上の機会がない。従って、その仕組みを作る上でも研修は必須。
- ・民生児童委員でも有り、幼稚園や小学校への応援をしている。幼稚園で茶道を教えている関係で学校茶道の研修にも参加している(回数には入れず)。民生の児童母子部会に所属しており研修している。保育園の相談員にもなっている。

問8 研修の受講希望:あなたはこれから先、地域で子どもや若者を対象とする教育活動に関する研修を受講したいと思いますか。

- ぜひ参加したい 27人
- どちらかといえば参加したい 27人
- どちらかといえば参加したくない 0人
- 参加したくない 0人
- わからない 1人

問9 希望する研修テーマや内容(自由記述)

- ・こどもサポーター
- ・子どもへの支援方法の事例紹介
- ・あそびの指導に関わる研修。
- ・放課後子ども教室等の先進的取り組みの具体例、成功例の研修、紹介
- ・今回は不登校とか教育の場での事ですが、地域で最近ニートが増えてきて、何で?と思うことが多々ある。親はいつ迄も生きていない。その対処などを教えて頂きたい。
- ・教育事情論
- ・家庭・学校教育の課題。いじめ、不登校、特別支援、地域教育力向上のためのコーディネーター。防災における協力態勢、低学力傾向にある児童のスキルアップ。
- ・発達障害があると思われる子どもとの育ち合い、接し方について、更に更に広く深く学びたい。
- ・発達障害について、もっと知りたいです。
- ・発達障害などがある子どもとどう接するか。
- ・特別な支援を要する子どもとの接し方
- ・子どもの心理
- ・思春期前後の子ども(特に女の子)の扱い方とか、接し方や心理。(6年生女子の話の真偽を見分けることが出来なかったという経験から。)
- ・子どもとのコミュニケーションの取り方。中学生の現状(精神面、環境面)
- ・カウンセリングに関わる研修。
- ・子どものやる気を高めるにはどうすればよいか。
- ・地域と学校現場の具体的な連携(現状)
- ・学校と地域の連携とそれを巻き込む社会教育
- ・地域と学校の望ましい関係のあり方、学校教師への支援、学習支援、ボランティアの考え方、ボランティア、それも目的は同じであるが異世代のボランティアが継続して続けていく条件。長く続く秘訣。
- ・活動をする側(スタッフ)をどうまとめ、意識の底上げをしていくか学びたい。対子どもも大事ですが、スタッフ側の団結ももっと大事と思います。
- ・気持ちを切り替える方法

問10 受講理由(複数回答可)

地域で子どもや若者を対象とする教育活動の「理念や役割」を理解したかったから 29人
 地域で子どもや若者を対象とする教育活動の「知識」を身につけたかったから 43人
 地域で子どもや若者を対象とする教育活動の「技術」を身につけたかったから 28人
 将来、就職活動に役立てるため 7人
 「こどもパートナー」の認証を取得できるから 17人
 他の受講者との出会い、同じような立場の人との交流を図りたかったから 0人
 所属先(先生や上司など)から受講するよう指示されたから 3人
 その他 6人
 その他の理由
 ・市役所からの案内
 ・認証更新のため
 ・現在の仕事に反映するため
 ・バルシューレの認証を取得出来るから

問11 資格認証の必要性:地域で子どもや若者を対象とする教育活動を行っている人には、どのような「資格」が必要だとお考えでしょうか。(複数回答可)

教員や保育士など、子どもや若者の教育・保育に関わる資格 15人
 社会福祉士、ソーシャルワーカーなど、福祉に関わる資格 5人
 保健師、思春期保健相談士など、健康、医療に関わる資格 8人
 社会教育主事、学芸員、図書館司書など、社会教育に関わる資格 1人
 ユースワーカーなど、青少年活動に関わる資格 7人
 スポーツやあそびの指導などに関わる資格 17人
 子どもや若者の状況に応じた資格(カウンセリング、キャリア支援など) 22人
 こどもパートナーなど、子どもや若者を対象とする教育活動に関わる資格 14人
 特に必要としない 10人
 わからない 6人
 その他 3人
 その他の理由
 ・志の高い、地域支援人材にこれらの資格ⁱⁱⁱを取得できる機会や制度を整えてほしい。
 ・上記すべての資格又は資質
 ・分かってもらう気持ち

3. 調査結果の概要

受講者の特徴としては、50代と20代の参加が多く、また現在仕事ないしボランティアとして月に複数回活動に携わっている人々、特に、民生児童委員や地域教育協議会や放課後子ども教室など行政による枠組みの中で活動している人が多いことが分かった。

次に、研修に関する現状と認識について概要を述べる。回答者55人のうち30人が「今回初めて研修を受けた」と答え、一方で、研修を受ける機会が年に1回以上ある人は25人いた。

研修の必要性については、回答者全員が研修の必要性を感じると答えた。その理由は6つに大別できる。第一に「一人よがりな接し方」や「誤った関わり方」をしないように、あるいは「子どもとの対応に迷うことが多々有るから」等に子どもへの接し方や子どもに関わる知識や技術を学びたいという理由、第二に「色々な子どもがいるので」、「子どもに寄り添う理論をより深めるため」、「知識として知る事でより深く理解できるようになると思う」からといった子ども理解を深めるため、第三に「現代のニーズにあった教育」ができるように「今の子どもの現実」や「子どもの現状」を知る必要があるから、第四に「自分の方向性」を確認したり、「活動を振り返るきっかけ」や「改めて考える良い機会となる」から、第五に「ボランティア活動の意義」など活動の「目的を共有する」ため、そして最後に情報交換やネットワーク作りの機会になるから、である。

希望する研修の内容については、「支援方法の事例紹介」、「先駆的な取り組みの具体例、成功例」といった事例、家庭や学校教育の課題など教育事情に関する内容、発達障害やその支援に関すること、子どもの心理やカウンセリング、特に中学生・思春期の子どもの心理や接し方、地域と学校の連携や関係のあり方、活動するスタッフ(ボランティア)のまとめ方・コーディネートに関すること、等が挙げられた。

本研修会の受講理由は多い順に、地域で子どもや若者を対象とする教育活動の「知識を身につけたかった」から(43人)、「理念や役割を理解したかった」から(29人)、「技能を身につけたかった」から(28人)、こどもパートナーの「認証を取得できる」から(17人)、所属先(先生や上司など)から「受講するよう指示された」から(3人)となっている。

資格認証の必要性については、55人中16人が「特に必要としない」ないし「分からない」と答え、一方で、「その他」を選んだ3人を除く残りの36人が、資格を必要だと考えていることが分かった。具体的な資格(地域で子どもや若者を対象とする教育活動を行っている人が必要とする資格)の種類については、10人以上の回答者がその必要性を認めた資格の種類は多い順に、「子どもや若者の状況に応じた資格(カウンセリング、キャリア支援

など)」(22人)、「スポーツやあそびの指導に関わる資格」(17人)、「教育・保育に関わる資格」(15人)、「こどもパートナーなど教育活動に関わる資格」(14人)である。

おわりに

今回のこどもパートナー養成講座に関する調査から、受講者の所属から、民生児童委員や地域教育協議会や放課後子ども教室など行政による枠組みの中で活動している人々の研修の機会として活用されていることが分かった。

また、研修に関する現状と認識から、受講者の過半数が研修の機会をほとんど持たず、一方でその必要性を感じており、機会があればまた参加したいと答えている。資格認証についても、半数以上の受講者が何らかの資格認証を必要としていることが明らかになった。

以上をふまえると、地域で子どもや若者を対象とする教育活動に携わる人々向けの研修が十分に存在していない現状において、本学がこどもパートナー養成講座を開講

する意義が見いだされたと見えよう。

今後の課題としては、「研修の必要性の理由」および「希望する研修内容」の結果によって明らかになった受講者のニーズを反映した講座プログラムの改善・開発が求められる。

-
- i こどもパートナー養成講座については次を参照されたい。生田周二・藤田美佳・立石麻衣子「奈良教育大学におけるキャリア教育の構想および展開の現状と課題」『奈良教育大学教育実践会開発研究センター研究紀要』Vol.22、2013年、171-173頁。
 - ii 自由記述(設問7、9~11)については、内容の意味を変えない範囲で、読みやすいように文章表現を改める等、若干の修正を加えた。
 - iii 設問11の選択肢に挙げた資格(「教育や保育士など、子どもや若者の教育・保育に関わる資格」から「こどもパートナーなど、子どもや若者を対象とする教育活動に関わる資格」まで)を示す。